

WEEKLY SIGNAL

平成30年6月29日(金) 1430号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/2(月)	7/3(火)	7/4(水)	7/5(木)	7/6(金)
無担保O/N			△0.086% ~	0.001%	
銀行券	+ 300	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△ 28,400	△ 5,000	△ 42,000	△ 2,000	△ 3,000
資金需給	△ 28,100	△ 5,000	△ 42,000	△ 2,000	△ 3,000
主な要因	国債発行(2Y) 国庫短期証券 発行・償還(3M)	法人税・消費税・保険揚げ	法人税・消費税・保険揚げ 国債発行(10Y)		国債発行(30Y)
オペ期日	共通担保(本店) △ 2,400 国債補充供給 + 1,400				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,400 国債買入 + 9,700 ETF買入 + 100				
(日本)	企業短期経済観測調査(6月短観)	マネタリーベース(6月)	原田日銀審議委員、講演(金沢市)	政井日銀審議委員、講演(松本市)	家計調査(5月) 毎月勤労統計(5月) 景気動向指数(5月)
(海外)	米 建設支出(5月) 米 ISM製造業景況指数(6月) ユーロ圏 製造業PMI(6月、改定値) ユーロ圏 失業率(5月) ユーロ圏 PPI(5月)	米 製造業受注(5月) 米 自動車販売(6月) ユーロ圏 小売売上高(5月)	米 祝日で米株式・債券市場は休場 ユーロ圏 総合PMI(6月、改定値) ユーロ圏 サービス業PMI(6月、改定値)	米 FOMC議事録 英 カーニー英中銀総裁が講演 米 ADP雇用統計(6月) 米 新規失業保険申請件数 (6月30日終了週) 米 ISM非製造業総合景況指数(6月)	米 雇用統計(6月) 米 貿易収支(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.050 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、392兆8,000億円から始まった。27日には20年債の発行等で減少したものの、その後は国債買入れ等を主因に増加し、393兆6,500億円を越えとなった。
無担保コールON物金利は、先週に引続き調達ニーズが薄く△0.08%台の出合も多く見られる軟調な展開が続いた。月末初物となる週末には、一部ビッドサイドが調達を見送るなどした影響で△0.08%台の出合が減少した。その結果、加重平均金利は△0.069%と、前日から小幅上昇した。ターム物は6月末越えの運用を避ける動きから、週初は出合が乏しかった。7月スタートのターム物については地銀業態から△0.06~△0.07%のオファーが見えた。
来週は、国内では、日銀短観6月調査(2日)、海外では、米FOMC議事録公表(5日)、米雇用統計(6日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約2兆8,000億円で、週間償還総額(約3兆6,200億円)から大幅に減少した。四半期末要因を受けて、月末日スタートの発行は償還(約2兆4,300億円)に対し9,300億円程度に留まった。但し、一般事業法人の資金調達ニーズは強く、7月初スタートでは1兆円超の発行が確認された。6月末の発行市場残高は、1兆2,262億円程度と、前年同月(1兆5,801億円)比16カ月連続プラスとなった。発行レートは、引き続き一部の希少銘柄については強めの札が見られたが、概ねマイナス~0%近辺の出合であった。
来週の償還総額は、5,700億円程度となっている。一般事業法人の発行ニーズは強いものの、月越えのショートターム物の期落ちも多く、横這い推移が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いであろう。5日には、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

29日に行われた3M767回債は最高落札レート△0.1263%(前回債△0.1288%)、平均落札レート△0.1319%(同△0.1324%)と前回債とほぼ水準となった。セカンダリー市場では、同3Mは△0.132%と入札水準から変化なし。6Mは△0.135%、1Yが△0.134%の出合と、いずれも先週から大きな動きは見られなかった。
来週は7月6日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初△0.125%~△0.115%から始まり、週中にかけても同水準で推移した。6月末受渡しの取引は△0.15%~△0.14%から出合が付き始めたが、その後レートは上昇。△0.11%近辺で多く取引された。週末は短期3M、2年債の発行が重なり、△0.105%~△0.10%が出合の中心となった。SC取引では10年350回債のbidが多く、概ね△0.20%近辺~△0.10%台前半。週末の国債買入れオペ後は△0.30%近辺の出合が一部見られた。その他5年133・134・135回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年9・10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。